

# 武蔵野市学校施設整備基本計画中間のまとめ 要点

令和元年6月25日  
学校施設整備基本計画  
策定委員会（第1回）  
資料5

## 第1章 学校施設整備基本計画について

### 1 学校施設整備基本計画の位置づけ

本市では既存の公共施設の耐用数を原則60年と定めており、今後学校施設を計画的に更新するため、武蔵野市学校施設整備基本方針（平成27年5月）を具体化させた計画として策定する。

### 2 計画の期間と見直しサイクル

当初10年間の実行計画、次の10年間の展望計画の20年間とし、10年で計画を見直す。

### 3 本市の学校施設をめぐる現状

### 4 本市の学校施設をめぐる課題（抜粋）

- ・持続的な財政運営
- ・公共施設等総合管理計画を踏まえた検討
- ・教育活動を十分に行うための校地の確保の検討
- ・施設の多機能化・複合化の検討

## 第2章 学校施設整備に向けた考え方

### 1 これからの武蔵野市の学校教育に求められる目標

### 2 学校施設整備に向けた考え方

#### (1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・協働的な学びができる学校

- ①多様な学習形態、弾力的な活動を可能とする教室・教室まわり
- ②情報環境の充実、高度な教育機器を導入した高機能な教室
- ③積極的に活用できる学校図書館・メディアセンターの整備
- ④教科教育の充実のための特別教室・特別教室まわり
- ⑤学校環境の変化に柔軟に対応できる施設計画

#### (2) 健康的かつ安全で豊かな、ユニバーサルデザインに配慮した学校

- ①ゆとりと潤いのある生活の場
- ②豊かな人間性を育成する多様な交流の場
- ③健康に配慮した計画
- ④体力向上のために十分な運動用空間の確保
- ⑤地震等の災害に対する安全性の確保
- ⑥安全・防犯への対応
- ⑦誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した環境整備
- ⑧インクルーシブ教育の実現を可能とする施設
- ⑨カウンセリングの充実のための施設

#### (3) 周囲の環境と調和し、地域のつながりを育てる学校

- ①学校・家庭・地域の連携協力
- ②地域における児童福祉の場となる学校施設
- ③多機能化・複合化に対応した施設
- ④生涯学習の場となる学校施設
- ⑤地域の避難所となる学校施設

⑥環境と共生し、環境教材となる施設

⑦地域の自然や文化性を活かした環境に配慮した施設

⑧永く愛される学校

## 第3章 計画・設計の具体的条件（抜粋）

### 1 施設規模（各諸室の必要規模及び室数）

校舎面積は、国の補助基準で定められた必要面積及び児童生徒一人当たりの基準面積を基準とする。

### 2 各諸室等の配置（ゾーニング）

複合施設と共同利用での利便性を向上させ、施設管理において学校に負荷をかけないため、管理区分を設ける。

	規模	配置
普通教室	収納部分を除き65㎡前後とする。	自然採光の確保、室内の照明、冷暖房設備の活用を前提に、最良の結果を得られるよう南面にこだわらない
校庭	小学校：トラック周囲120m以上、直線走路50m以上 中学校：トラック周囲150m以上、直線走路50m以上	水はけ等必要な機能を確保したうえで、南側校庭以外の配置も検討する
屋内運動場	想定最大学級数に応じ、アリーナ一面あたり2展開の授業が可能な規模とする	避難所としての利用を想定し、1階に配置することを原則とする
プール	25m×12m（6コース）程度	校地の条件によっては学校外施設の活用、複数校での共同利用、及び地域住民との共同利用を検討する

### 諸室配置一覧表

教室ゾーン	学校管理		地域子ども館管理	生涯学習担当管理
	管理ゾーン	保健・支援ゾーン	放課後ゾーン（小）	開放ゾーン
普通教室 習熟度別学習教室 特別支援学級（知的障害・肢体不自由） 学校図書館 多目的室 タブレット管理室 理科室 図工室（小） 技術室（中） 美術室（中） 被服室（中） 児童会室（小） 生徒会室（中） 進路指導室（中） 帰宅困難対策倉庫	職員室 事務室 校長室 応接室 主事室 放送室 印刷室 給食調理室（小）	保健室 教育相談室 特別支援教室 個別支援教室 難聴・言語障害学級	あそべえ 学童クラブ	屋内運動場 プール 音楽室 家庭科室（小） 調理室（中） 防災倉庫 PTA室 会議室